

ソル・イ・ソングラという諺がある。

光と影。闘牛場に落ちる三日月型の影、あるいはオーバル型の光。陽射しの強いスペインを象徴するもの。ソル・イ・ソングラとは、そんな言葉だ。

逸脱した外観の色彩。六角形のセロシアと呼ばれる手法。光を受けるその姿は力強く凜とし圧倒される。

凝視してみると、それは一種の分子式にも似て、連鎖的に繋がり結合しテトリス状に積み重なっていき、ひとつの集合体となっている。スペインのテーマとして「地球大交流」が掲げられ、セロシアの積層された外観を見ると、膨大な要素がひとつのルールに従って積み重なっていく印象を受け、多様な文化の交流によって作り上げられたスペインの歴史にもオーバーラップする。

一転内部は自然の光を排除しているが、六角形のモチーフは徹底されている。外観の力強さと内部の静寂さとのギャップが、ふとソル・イ・ソングラという言葉に繋がった。スペインであのセロシアが建っている姿を想像してみる。乾いた大地と空にととも映える映像が浮かんでくる。

